



無駄な抵抗はやめなさい

上のタイトルは、もう今から20年以上も前の中学3年生が卒業文集に寄せたものです。豊かな発想と表現力がすばらしく、とても気に入っている文章です。そのすべてを下に掲載したので読んでみてください。

僕ははっきり言って中学校で習う勉強はほとんど無駄だと思う。

まずは、国語だ。日本人だからできるのは当たり前だと思う。ただ漢字の読み書きと本を読むことができれば生きていけるはずだ。副詞や連体詞ができないからといって、死ぬことはまずない。

数学は、本当に社会で役立つことはない。知っておけばよいものは、たし算ひき算、それとかけ算わり算。それだけを知っておけば大丈夫だ。スーパーで買い物をする時でも、方程式や平方根などを使って計算する人はいないはずだから、数学も役に立たないと思う。

理科もほとんど役に立たない。実験ができたからといって内閣総理大臣になれるわけでもないし、元素記号や化学式がわかるからといって、会社の社長になれるということは絶対にないと思う。

社会はちょっとだけ役に立つものがある。それは公民だ。あとの歴史や地理は役に立たない。なぜ僕たちが過去を振り返らなくてはならないんだ。そしてなぜ外国の国名を覚えなければならないんだ。そんな勉強をするくらいなら、郵便局と銀行の利子はどちらが高いかを勉強する方がよっぽど役に立つ。

英語は、将来外国で暮らす人が勉強するものだと思う。よくテレビで、町などで外国人が英語で「この家はどこにあるか教えてください」とか言っているのを見かけるけれど、それにすんなり英語で答える日本人は情けないと思う。「ここは日本なんだ。日本に来るのなら日本語くらい覚えてこい」と言いたくなってくる。だから、英語だって覚える必要はないと思う。

というわけで、はっきり言って中学校の勉強は役に立たない。それをやっている僕たちは無駄な抵抗をしているのだ。でも、それを知っていても勉強する僕たちは、やっぱりすばらしいことだ。

勉強が役に立つか立たないかが本当にわかるのは、社会に出てからです。そのときになって、「もっと勉強しておけばよかった」と後悔する人もいます。実際、社会人になった彼に偶然会ったときに、この言葉を言ってきました（でも、上の文章のことはすっかり忘れていました）。

なぜ学ぶのかという問いかけに、私は「自己実現をするために学ぶ」と答えています。自分を生かして生きていくために学ぶわけです。そう言うと、「この学習は何の役に立ちますか」と聞く人がいます。

京都大学名誉教授の森毅さんは、そう問いかける学生たちに「そうね、7割までムダになるね。しかし、その7割をバカにしてはいけない」と述べ、ある生物学者から聞いたアリの話を持ち出すそうです。

アリはどのアリも忙しそうに働いているように見えますが、実働アリはせいぜい3割程度なんだそうです。そして、この3割だけの働き者のアリだけをピックアップして精鋭アリ集団、エリート・アリ集団を作ると、ものすごい働きになるかということそうではなく、実働アリはやはり3割程度になるそうです。今度は逆に、7割のズッコケアリを集めて働かせると、これまたその内の3割が働き出すというのです。

この話は極めて含蓄のある話で、働き者と怠け者という取り合わせは、心がけ次第や周囲の環境でいつも入れ替われると言えそうです。

※「ちょっといい話」(秋山忠著)から一部抜粋

“社会”を目前にした大学でも「7割がムダ」なんですね。また、最後の一文からも考えさせられます。あなたは、「働き者」「怠け者」のどちらでしょうか。あなたの学級で考えてみてください。でも、アリではありません。学級全体が“働き者”になることだってあるのです。その逆もありますが・・・。

期末テストまであとわずか。学級全員が“働き者”となって、真剣な授業を創り上げていきましょう。

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ お知らせ ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

- ◆ 三豊市では、家族のふれあいや読書、手伝いの時間を増やすことを目指した『ノーテレビデー』を年3回設定しています。本校は、第1回目を6月24日(月)として調査します。なお、今はテスト発表中なので、その日だけでなく、テレビを我慢して“無駄な抵抗”をしてみてください。
- ◆ 昨日「臨時休業」となりましたが、学校への問い合わせの電話は0件でした。各家庭で情報を入力し、判断していただいていることがうかがえます。本当の“防災教育”が浸透しつつあります。